日本建設機械化協会

J. C. M. A.

No. 122　　　　1960年4月号

目　次

機械化施工雑感 ……………………………………………小　林　国　司… 1

飛躍の曲り角―建設業と建設機械の話題― ……………小　林　元　椽… 3

中央自動車道の調査結果について ………………………斎　藤　義　治… 7

The Experiment Station University of Nebraska Department of Agricultural Engineering 視察報告 ………建設機械化専門視察団…12

D 8 の現場作業実績について ………………………三谷　健・磯上一男…38

新 D 7 (17 A) ブルドーザの 5,000 時間分解修理を実施して…………
日本国土開発株式会社王子モータープール…41

米国における機械化施工所見 ……………………………伊　藤　雅　夫…48

御母衣ダム工事見学の新技術報告 ………………施工部会新技術委員会…50

バッチヤープラントの制御改良について ………………古　屋　浩　三…58

振動式くい打について ……………………………………黒　川　史　郎…62

モータースイーパの使用実績について ……………秋山次雄・大野利幸…65

フレキシブル社（米国製）5P 型下水清掃器 …………倉　田　保　造…68

国産建設機械の仕様表（その1）………………………………………………70

行事一覧・編集後記 …………………………………………(長 江・前 田)…74

当協会団体会員一覧表

◇表紙写真説明◇

三菱日本重工業株式会社東京自動車製作所製

三菱 BS 30-S 型サイドダンプ式トラクタショベル

三菱日本重工業（株）では今度新製品として BS 30-S 型サイドダンプ式トラクタショベルを量産に移すことを発表したが，これは 34 年1月試作完成以来約1カ年間各種の現場で作業試験を行なつてきたものである。

本機の特長は，本体を旋回させずに土砂積込ができることで，道路の片道施工，その他狭い現場での積込作業において新威力を発揮することゝなろう。なお，そのまゝでフロントダンプに兼用できる等構造的にも相当新境地を拓いている。

主　要　諸　元

性能	走行速度前進(4段)	2.8~12.2 km/h
	後退(〃)	3.2~14.3 km/h
	最大けん引力	10,500 kg
	最小回転半径	約 2.8 m（その場旋回）
	バケット容量	1.2 m^3
要目	全長	5,320 mm（バケット前端まで）
	全幅	2,850 mm（バケット取付時）
	全装備重量	13,500 kg

主クラッチ	型式	湿式多板式 クラッチブレーキ付
エンジン	型式	三菱 DB 31 C 型ディゼルエンジン
	作業時最大出力	115 PS
	始動方式	電動機式 24 V-7 PS
特別装備品	フロントダンプ式爪付バケット ブルドーザ排土板 スノープラウ，リフトフオーク，クレーンフック 油圧リッパ等	